

## 第4回寝屋川市放課後子ども総合プラン運営委員会議事録

1 日時 平成29年2月21日(木) 午後2時から午後3時

2 場所 議会棟4階 第1会議室

3 参加者

(1)出席委員(10名)

杉本委員長・辻本(通)副委員長・大山委員・福田委員・中澤委員  
葛城委員・川北委員・北西委員・青木委員・長澤委員

(2)欠席委員(4名)

澤井委員・坂本委員・辻本(嘉)委員・平田委員

(3)事務局(6名)

川原課長・向井係長・森本係長・大久保・山田支援員・高岡支援員

4 次第

(1)放課後子ども総合プラン運営委員会報告書(案)について

(2)その他

5 会議内容

(1)放課後子ども総合プラン運営委員会報告書(案)について

副委員長：参考資料について木屋小学校と木田小学校は昨年より減少傾向にある要因は。

⇒現年度は12月現在の実績で昨年度と同様のプログラム内容を実施しているためである。

青木委員：今年度に新たな取組みをされた小学校とプログラム内容は。

⇒第五小学校が学習支援、池田小学校が寺子屋、2校がモデル校になり新たに試みている。三井小学校は実施数がモデル校になり増加している。

青木委員：国の指針に合った事業を推進している実績が必要では。一体化の成果

に基づき、留守家庭児童会児童の参加数提示を希望する。3月の実施報告の際に依頼できないか。

⇒今年度は留守家庭児童会児童の把握をされていないモデル校がある。次年度の様式には欄を設ける方向で検討（留守家庭児童会児童の参加実数と指導員の参画状況）

北西委員：新モデル校の選出基準の標記「エリア」は「中学校区」か。そうであるならば、表現変更してはどうか。

⇒「エリア」から「中学校区」へ記載を明確に変更。

副委員長：保護者・参加児童の満足度回収の検討

⇒「運営委員会の検討事項」に聴取方法の検討を記載している。

副委員長：地域・保護者・PTAの認知度調査は把握しているか。

⇒把握していない。

委員長：地域に認知を広める際は成果を基準にすると良い。行政・運営委員会には評価基準を設けて貰う。またホームページ・SNSで参画者を広げる方法もある。

川北委員：～はじめに～記載の「成熟の時代」の未来を見据えた「子どもの居場所」を実行委員会として意識しなければいけない。

福田委員：参考資料から三井小学校の実施回数の読み取り方を説明頂きたい。全て成果として捉えるならば、現モデル校の実績検証「成果」記載の負担軽減があったのか。

⇒三井小学校のPTAが輪番制で出席確認をされている。週1回の学習支援と囲碁・将棋教室プログラムも追加され努力が伺えるので、負担軽減には繋がっていない。

福田委員：実行委員会の協力体制と負担を把握すべき。良き相談役・理解者として行政が寄り添うべき。

委員長：現モデル校の実績検証「成果」に記載の「継続的なプログラム～」とは。

⇒池田小学校の実績を参考としている。継続的な「居場所」をプログラムとして場所を提供し、児童がやりたい事をして過ごす。その為、子供教室を実施する「回数＝企画立案」の負担が軽減されている。

委員長：池田小学校の場合は放課後から校庭開放までに学校で安全を確保する課題等があった。その為に立案された「居場所」のプログラムが、児童や地域・実行委員会に効果のあるプログラムになったのでは。

福田委員：現モデル校の実績検証「課題」について記載が「2年目に向けた提案」に反映されるべき。

- ・「児童が主体的に意見を持ち、やりたい事のできるプログラム等の提供」

⇒「囲碁や将棋教室など、上級生が興味のあるプログラムを充実する」の文言整理を行なう。

- ・「児童のケガや事故など不測の事態への対応マニュアルを定めるとともに、実行委員会内での情報共有・周知徹底が必要である」

⇒現モデル校の実績検証「2年目に向けた提案」に緊急対応マニュアル作成を追加。

福田委員：「児童が主体的に意見を持ち、やりたい事のできるプログラム等の提供」について、プログラムの提供には児童に新しい経験の場を保証する事を大事にしている。また、児童にサービスの受け手に留まる子供教室ではなく、自分の空間と時間を保証することが、寝屋川市放課後子ども総合プラン運営委員会の方向性である。

委員長：「自主的」は与えられたプログラムへの自主的に関わる事。「自発的」は自らが何かをしたいと行動を起こす事。双方を併せ持ち「主体的」と運営委員会では提示している。何もないプログラムに場所と時間と仲間があり、後は何をするかを児童に決めてもらうプログラムも良いのでは。

大山委員：子供教室の協力者について。現モデル校の実績検証の「課題」に「地域協働協議会などさまざまな地域団体等への協力による人材の確保」が挙げられているが、実行委員会から個々に声かけするのではなく、行政より文書を以って子供教室の周知と依頼を希望する。

⇒それぞれの小学校区単位に地域の関わりのある団体や実情がある。そのため、文書を送付して完了するのではなく、各実行委員会がどのような協力が必要かを把握したい。その上で、協力依頼に同席させて頂き、放課後子ども総合プランの説明と依頼をさせて頂きたい。

新モデル校の選出・運営「行政支援の在り方」に記載あり。及び、  
現モデル校「課題」に「地域の状況を勘案し」を追加。

川北委員：行政支援の在り方への追加検討案。中学生の社会体験や大学実施のパ  
トロールカー活動との交渉など視野を広げた情報提供。及び、年齢  
の近い世代との交流。

青木委員：運営委員にもスポーツ推進委員も在籍されている。寝屋川市はスポー  
ツリーダーズバンクやまちのせんせいバンクが提供でき、2新モデ  
ル校の選出・運営「行政支援の在り方」に追加検討されては。

⇒追記させていただく。

委員 長：新モデル校の選出・運営「初年度に向けた提案」の「地域住民・大  
学生の協力を得て、安全管理員や放課後校庭開放サポーター確保に  
努める」とあるが、プログラムの企画立案も幅広く出来れば更によ  
くなると考察される。

北西委員：現モデル校の実績検証「成果」の「事務従事者を専従採用することが  
できるようになり、これまでの学校教員への事務負担が軽減され  
る」及び、新モデル校の選出・運営「初年度に向けた提案」の「書  
類作成、会計処理など事務の役割を分担し効率的な事務を進める」  
について、まず、実行委員会で役割分担する事になる中で負担軽減  
を見込んでいるが、年度で実行委員が変わる事も並行して見込め  
る。事務従事者への説明会があれば良い。

青木委員：校庭開放サポーターのみ研修の項目があるので、限定せずとも良いの  
では。資質向上の研修を拡充・整理しマニュアルに拡充して追加。

葛城委員：スポーツ推進委員から子供教室の講師を希望するが、道具不足があり  
実行できていない。子供教室で購入等課題があるので希望校は企画  
立案から始めたい。

川原課長：本日頂いた意見を基に文言修正を行い、委員長に最終確認させて頂  
く。

## (2)その他

良社会教育部長よりあいさつ。